

ABEST21

2010 経営専門職大学院認証評価審査結果

南山大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻

1) 教育プログラム

南山大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻（以下「ビジネス専攻」という。）は、2006年4月、東海地区のニーズに対応した実践的教育に志向し、「ものづくり・ロジスティックス」及び「中国をはじめとするアジア諸国・諸地域の企業とのコラボレーション」において強みを発揮する人材を養成する専門職大学院として設置された。ビジネス専攻は、授与する学位は、ビジネス修士（専門職）（Master of Business Administration(MBA)）である。入学定員50名、収容定員100名である。ビジネス専攻は、「教育研究上の目的」を下記のとおり制定した。

「ビジネス専攻（専門職学位課程）は、国際社会において有効な企業経営を可能にする高度で専門的な知識、スキル、発想および思考の枠組みを身につけ、本学の教育モットーである『人間の尊厳のために』を自覚した企業人として、経営倫理の視点から社会的責任を果たし、地域社会および国際社会の発展に寄与する人材を養成する。」

この「教育研究上の目的」の達成のために、ビジネス専攻は、1) 東海地区のニーズに合った実践的教育、2) 経営倫理・環境経営の重視、3) ビジネスの基本理論と本質の理解の徹底、4) 学生が志向するキャリアプラン、5) 実践的問題解決能力の向上を図るプロジェクト研究、そして6) 英語・中国語によるコミュニケーション・スキルの育成を特色とした下記の4つの履修プログラムを設定している。

- ・「アカウンティング & ファイナンス・マネジメント」プログラム
- ・「ヒューマン・リソース・マネジメント」プログラム
- ・「マーケティング & ストラテジー」プログラム
- ・「オペレーションズ・マネジメント」プログラム

特に、ビジネス専攻は、東海地区がものづくりの産業拠点として日本経済を支え続けてきており、現在、多くの企業が戦略のグローバル化を進め、次なる一歩を踏み出そうとしている。ものづくり産業拠点である東海地区で活動する企業のグローバル化ニーズに応える教育の実現に取り組んでいる。

2) 認証評価審査結果

ビジネス専攻は「教育研究上の目的」を実現するために経営戦略を適切に設定している。また、教育の質維持向上を図る評価基準は大体において満たしていると判断される。さらに、自己点検評価分析において、改善すべき課題を自ら抽出し、その課題への対策を施している。さらに未解決の課題についても自己分析し、計画を適切に設定している。以上のことから、ABEST21はビジネス専攻の教育プログラムに対して下記の評価をする。

「本教育プログラムは、評価基準が大体において満たされ、改善すべき課題があるけれども教育研究の質維持向上が期待でき、優れている教育プログラムである。」PDCAのサイクルの効果的な実践が期待できると判断される。

一方、ビジネス専攻の教育プログラムのより一層の発展のために、下記の課題の改善が求められる。

- ・「教育研究上の目的」について、「教育研究上の目的」をステークホルダーと深く共有していくことが求められる。
- ・「教育課程等」について、ものづくりの現場は圧倒的に中小企業が多いので、地域のニーズを汲み取るための産業界とのより一層のコラボレーションが不可欠である。

- ・「学生」について、学生確保のために潜在的学生に対する認知・理解を深める広報体制のより一層の改善が必要である。
- ・「教員組織」について、「教育研究上の目的」の達成に貢献しうる多様な価値観を身に付けた教員の任用が必要と思われる。
- ・「管理運営と施設整備」について、専任教員、兼任・兼任教員に対するサービス及びサポートに必要な事務体制の確立が求められる。施設についても学生研究室、学生ラウンジ、教室などの施設の分散化及び老朽化を整備していく課題が残されている。

URL [南山大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻―認証評価審査結果報告―](#)